

冬山における気象遭難

気象委員会委員長 鈴木 和雄

本号では、冬山の気象遭難について、その特徴と遭難防止を主に述べてみたい。

2011年末から2012年始めにかけての気象は12月25日から27日に冬型の気圧配置が続き、今年一番の寒気が南下してきて「クリスマス寒波」という表現が久しぶりにマスコミに現れた。明けて1月3日には冬型の気圧配置が強まる予報であった。大雪注意報は出ていたが、山岳遭難のニュースでは年明けに北アルプスで低体温症で身動きがとれない登山者を救出される位で大きな事故が無かったのが幸いであった。

当連盟気象委員会では、毎年、年末年始に各山岳地域に入山したパーティの協力のもと各地域の気象データをまとめ、遭難防止に役立てているが、今年も継続実施している。

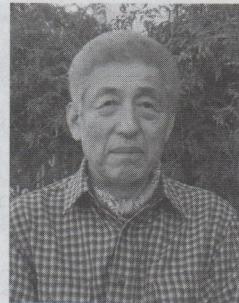
冬山の気象遭難の代名詞としては、「疲労凍死」と「雪崩」があるが「疲労凍死」については、「低体温症…」に表現が変わり、冬山に限らず一年中起こりうるものとしてマスコミ上でこの表現が使われてきている。一般的に標高の低い山より高い山、季節では夏季より冬季の登山が困難になるが、このことは気象条件の厳しさに置き換えることである。また交通機関の発達によるアプローチの短縮化、装備の軽量化による行動範囲の拡大化、気象情報の充実化等、一昔前に比較すると目を見張るものがある。ただ、この気象条件の厳しさだけは、地球温暖化の影響は若干あるが昔と殆ど変化していない。

気象遭難事故を分析する時、悪天候による

滑落・転倒、道迷い、疲労による行動不能等が思い浮かぶが、悪天候下でなくとも起こりうるこれらの事例を除いて、気象状況を切り口として述べてみたい。

冬の季節であるから、日本列島上では西高東低の冬型気圧配置が多く現れる。この気象条件の影響を受ける山岳地域では、大量の降雪による「新雪表層雪崩」、強風・吹雪による行動不能からの「低体温症」が代表的なものである。但し、この冬型気圧配置を冬季だけのものととらえるのは間違いであり、判断を誤ることとなる。春秋季でも発達した低気圧が通過後に大陸からの高気圧が張り出してくれれば短期間だが冬型の気圧配置となり、天候が急変することを覚えておかなければならぬ。1989年10月北ア立山の遭難、2006年10月北ア白馬岳の遭難事例は冬季でない季節に発生しており、低気圧、又は台風通過後の大陸の高気圧の張出しで冬型の気圧配置となり天候が急変したものであった。

また一つ、西高東低の冬型気圧配置の中で注意しなければならない現象に少々専門用語になるが「疑似好天」(疑似晴天とも呼ばれる)に惑わされることである。たとえば、西高東低の冬型気圧配置が一時的に日本海に低気圧が発生する等でゆるむと、北アルプスでも一時的に晴れ間が現れるが、半日くらいで長続きはしない。これを移動性高気圧に覆わ



れて天候が回復したものと勘違いして行動を継続すると痛い目にあう。このチャンスを撤収のチャンスとして生かさなければならない。

暖冬が続く昨今では、冬型気圧配置が長続きすることは少なくなってきたが2006年1月の東北、北陸地方を襲った豪雪で交通マヒが起きたことはまだ記憶に新しい。冬季の降雪が多く、根雪となれば春山の雪崩発生の条件にも影響してくる。

最後に冬山の気象遭難防止の観点から留意する点をいくつかまとめておく。

- ①入山前に：入山1週間前からその山岳地域の気象情報を事前に把握しておく。
- ②入山中に：上空の寒気の動向をつかむ
- ③天気図だけの判断でなく、観天望気により

事前の予想と現地の違いを知る

①については、インターネット等により昨今の気象情報は充実しているので、入山地域の予報気象情報を事前に入手することは可能である。

②については、NHK第2放送の気象通報（3回／1日）から富士山の気温データを聞きそのデータから上空の寒気の動向を判断する。

これ以外にも留意する点はあるが、紙面の都合上割愛する。

以上冬山の気象遭難について述べてきたが、周到な事前準備と気象変化の観察との確な判断力を元に、安全で楽しく、厳しい白銀の世界を満喫していただければ幸いである。

ジロー jRO 新しい山岳遭難対策制度 入会のおすすめ!!

日本山岳救助機構会員制度

■jRO会員が万一捜索・救助が必要になった時、費用が総額330万円まで補填されます(カバレージ制度)。

■遭難防止講習会、救助隊派遣の斡旋なども受けられます。

■入会金2,000円^{*} + 年会費2,000円 + 1年間の期間終了後、事後分担金
(事後分担金／過去の実績：2008年度900円、2009年度800円、2010年度600円)
他の山岳保険等と比して低廉です。^{*}入会金は初年度のみ

詳しくはHPまたはご案内リーフレットをご覧ください。 日本山岳救助 検索

<http://www.sangakujro.com/>

お問合せ先 TEL. 042-669-5330 (平日10時～18時)
jRO事務センター FAX. 042-669-5331
(セブンエー内) e-mail : info@e7a.jp

日本山岳救助機構合同会社 Japan Rescue Organization

